

基本情報



【年齢】
50歳
【出身地】
神奈川県横浜市
【転出元】
神奈川県川崎市
【前職】
フリーランス
【活動時期】
R2.8～ R5.8
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

地域振興、主に木質エネルギーの地産地消システム構築にかかる調査や計画策定、研究等に従事し、また趣味のトレランを通じて、かねてより森林の保全・活用への関心は高かった。コロナ禍の行動制限中、新常态において生活様式等が大きく変わる可能性を感じ、地方への移住を考えるに至った。そうした中、これまでの知見等を活かせるような本案件を見つけ、書類を送付し、派遣先の代表者らとオンラインでの意見交換等を通じて、森林の再生と資源活用に対する考え方が自分に近いと感じ、入隊を決意した。

今後の抱負・任期後の目標

派遣先企業で準備に携わった新規事業（薪炭事業）で、スタートアップ時の生産業務に携わりつつ、事業を軌道に乗せ、事業規模を拡大するための経営や営業にも関わることを見込んでいる。
また、個人事業として、同社の従来から事業であるジビエ加工品を活用（低廉で仕入れ）するとともに、天城のクロモジ等の山野草木を活用したカフェ・バル事業の実施を構想しており、必要になる資格の取得や協力者とのネットワーク構築を進めている。

活動内容

①二ホンジカの管理捕獲、及び屠体の資源化の強化

派遣先NPOが受託する県の二ホンジカ管理捕獲業務の捕獲（罾猟）に従事し、当該業務の安全強化策の提案と普及に努めている。また、駆除屠体の資源化率向上と、屠体の活用部位ごとの資源化にかかる商品開発、新規の販路開拓等に関与しており、特に赴任時に未利用だったシカも商品化し、資源化率はほぼ100%になった。



②未利用人工林の天然生薪炭林への転換

派遣先NPOでは管理が不十分な人工用材林を、シカ防除をしながら薪炭林に転換し、薪生産する構想を持っている。そのため、他のメンバーに先駆けて最低限の林業技術の講習を受け、技術習得に努めた。しかし、NPOの計画する規模の森林管理は未定で、活用可能な狭小な森林の整備を進めている。



③薪炭生産事業の計画づくりと実施に向けた準備

②が滞っているが、当面は原料に主に支障木等を用いた薪生産に、バイオ炭生産を付加した事業計画を作成するとともに、導入技術の選定、資金獲得（経産省補助金）等を支援し、さらに大学等との連携体制の構築を手掛けた。2022年内には、設備導入等の準備が整い、年度内に試運転等の準備を実施予定。



連絡先